

Society5.0 に向けた人材育成指針が示される！

〈 Society5.0 に向けた人材育成 ～社会が変わる、学びが変わる～ 〉

平成 30 年 6 月 5 日、文部科学省は、Society5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会の議論及び、新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォースの議論を踏まえ、「Society5.0 に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」を公表した。本報告書は、Society5.0 の実現に向け、教育現場や産業界をはじめ、社会全体で今後の教育施策を共に考えていくための材料とすべく、学びの在り方や施策の方向性等について整理したものである。

Society5.0 に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～の概要（全日教連要約・抜粋）

Society5.0 の社会像と求められる人材像、学びの在り方

〈Society5.0 とは〉

- 狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会〔内閣府 Web より引用〕 → 我が国が目指すべき未来社会の姿「超スマート社会」

〈Society5.0 において求められる人材像〉

- 技術革新や価値の創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材
- それらの成果と社会課題をつなぐ場所（プラットフォーム）の提供等、新たなビジネスを創造する人材

【必要な資質・能力】

- ① アントレプレナーシップ（起業家精神）
- ② エンジニアリング（工学）、デザインの発想
- ③ サイエンス（科学）、アートの発想
- ④ リーダーシップ
- ⑤ 倫理観、価値観

〈Society5.0 において求められる力〉

- ① 文章や情報を正確に読み解き、対話する力
→ 語彙や数的感覚等の基礎学力、論理的思考を行うための読解力、対話力等
- ② 科学的に思考・吟味し活用する力
→ 科学的に思考・吟味し活用する力やリテラシー、分析・思考する力等
- ③ 価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力
→ 豊かな感性や思考の流暢性、独創性や創造性、好奇心や探究心等

〈Society5.0 における学校〉

【予想される現場】

- ① 教育用 AI の発達、普及
- ② AI が、個人のスタディ・ログ^(※1)や健康状況等の情報を把握・分析して、一人一人に対応した学習計画や学習コンテンツを提示
(※1…学習履歴、学習評価・学習到達度等の総称)
- ③ スタディ・ログの蓄積による、学習の場の提供や支援に関する質の向上

【Society5.0 における学校の可能性】

- 一斉一律の授業スタイルの限界から抜け出し、（子供たちに）読解力等の基盤的学力を確実に習得させつつ、個人の進度や能力、関心に応じた学びの場となる
- 同一学年での学習に加えて、学習履歴や学習到達度、学習課題に応じた異年齢・異学年集団での協働学習ができる
- 地域の様々な教育資源や社会関係資本を活用して、いつでも、どこでも学べる

新たな時代に向けて取り組むべき施策の方向性

〈今後の方向性〉

【幼児期】

- 幼児期の教育の特性は社会が変革しても普遍的なものであり、教師が「人」であることの価値は変わらない。
- 指導の支援に役立てるという観点、あるいは教師の負担軽減の観点から、Society5.0時代の先端技術を活用することが考えられる。

【小・中学校時代】

- 義務教育に求められるのは、常に流行の最先端の知識を追いかけることではなく、むしろ、学びの基盤を固めることである。
- Society5.0を見据え、新学習指導要領の着実な実施が必要である。 → **公教育の責務**
- 学校や学びの在り方に関しては、「〇〇だけ」構造からの脱却が求められる。
～脱却すべきモデル例～ 「教師だけ」「同一内容だけ」「紙（媒体）だけ」「学校だけ」等

【高等学校時代】

- 生徒一人一人が、必要な学びが能動的にできる場への転換が求められる。
- 多様な選択肢の中で、自分自身の答えを生徒が自ら見いだすことができるような学習が中心となる場へ。
- 思考の基盤となるSTEAM^(※2)教育を、すべての生徒に学ばせる必要がある。

(※2…Sciense, Technolgy, Engineering, Art, Mathematics の頭文字)

新たな時代に向けた学びの変革、取り組むべき施策

① 「公正に個別最適化された学び」を実現する多様な学習機会と場の提供

- (具体) ・学習の個別最適化や異年齢・異学年等のたような協働学習のためのパイロット事業の展開
・スタディ・ログ等を蓄積した学びのポートフォリオの活用
・Edtech^(※3)とビッグデータを活用した教育の質の向上、学習環境の整備充実

(※3…教育におけるAI、ビッグデータ等の様々な新しいテクノロジーを活用したあらゆる取組)

② 基礎的読解力、数学的思考力等の基盤的な学力や情報活用能力をすべての児童生徒が習得

- (具体) ・新学習指導要領の確実な習得
・情報活用能力の習得
・基礎的な学力を確実に定着させるための学校指導体制の確立、教員免許制度の改善

③ 文理分断からの脱却

- (具体) ・文理両方を学ぶ高大接続改革
・地域の良さを学びコミュニティを支える人材の育成

本資料掲載文部科学省Webページにつきましては、右のQRコード又は、下のURLからアクセスできます。

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/06/06/1405844_002.pdf



Society5.0は、今後、AIの技術が急速に発達し社会が大きく変化することが予想される中で、内閣総理大臣からの諮問を受けた総合科学技術・イノベーション会議が策定した「第5期科学技術基本計画（平成28年1月22日閣議決定）」において提唱された「超スマート社会」のことである。

本報告書で明示された「Society5.0において求められる力」そして「Society5.0における学校」「今後の方向性」は、未来を担う子供たちにより良い教育を推進していくために、教育専門職である私たちがしっかりと共通理解しておかなければならない指針である。

その内容に目を向けると、Society5.0を実現するためには、“幼児期の教育の特性は社会が変革しても普遍的なもの”や“義務教育に求められるのは、常に流行の最先端の知識を追いかけることではなく、むしろ、学びの基盤を固めること”等、新しく公示された幼稚園教育要領や小中高の学習指導要領等の確実な実施につながる事柄が随所に述べられており、現場は、これまで同様「子供たち」を中心に据えた教育を直向きに推進することが重要となる。

なお、本報告書の最後には、「新たな時代に向けた学びの変革、取り組むべき施策①②③」の推進には、前提となる基盤整備が必要不可欠であり、その具体として「教職員定数の改善」や「ICT環境や施設整備の推進」等が挙げられている。

全日教連は、今後の中央要請行動において、引き続き標準法改正を伴う教職員定数改善等を求めるべく、今年度も7万筆を目標に署名活動を展開する。全日教連活動を支える全会員の協力を是非お願いする。